

## 国家戦略特区のアイデア

2013.07.05

MICG 大上二三雄

### 1. 国家戦略特区とは？

#### (ア) ミッション

- ① 世界で一番ビジネスのしやすい環境を作る
- ② (大胆な規制改革の) 実験場として突破口を開く

#### (イ) ビジョン

- ① 新しい技術やシステムによるイノベーション
- ② 国の経済成長に大きなインパクト

#### (ウ) アプローチ

- ① 国の成長戦略に基づいた集中的な取り組み
- ② これまでとは次元の違う？
- ③ 大胆な規制改革と税制措置
- ④ 総理主導
- ⑤ 国・地方自治体・民間が三者一体

### 2. 私の課題認識

(ア) 個別課題に着目した問題解決ではなく、社会システムに着目した好循環への転換を指向する

(イ) 1特区=1政策目的ではなく、複数の政策目的でΣ効果の最大化を指向する

(ウ) 「やれること」「やりたいこと」ではなく、「やるべきこと」を考える

### 3. 私の提案

#### (ア) 地域バイオマスエネルギー特区

##### ① 特区の概要

1. バイオマスを中心とする再生可能エネルギープロジェクトを推進するにあたって、バイオマスサプライチェーンの上流にあたる原料調達から、下流のエネルギー供給に至るまでの一連のシステム、及び太陽光、風力、地熱、小水力の再生可能エネルギーに関して、全ての規制を以下の条件で撤廃若しくは大幅に緩和する。

(ア) バイオマスエネルギー量がエネルギー全体供給量の50%を超える。

(イ) バイオマスの原材料に関して全て地域より調達することで、地域における農林畜産業生産をx x億円以上増加させる。

(ウ) 官民連携による事業主体

(エ) 省エネルギーの義務化

##### ② 特区の期待効果

1. 定量的効果
  - (ア) 域外からのエネルギー購入削減による、地域 GDP 押し上げ効果
    - ① 通常、全量自前化を前提に GDP の 5~6 %
  - (イ) 原材料購入に伴う農林畜産業の刺激効果
  - (ウ) 電力設備投資の前倒し効果
  - (エ) 観光
2. 定性的効果
  - (ア) 機器やビジネスモデルの海外展開
  - (イ) ショールーム効果
  - (ウ) 規制改革の促進

③ その他特徴

1. 投資金額が大きい（1mw＝数億円）ので、経済効果大
2. 地域経済を継続的に刺激する波及効果大

(イ) 環境・エネルギー特区

① 特区の概要

1. 電力システム改革を踏まえた電力事業に関する規制制度改革を、先行して実施する実験場。
2. 環境・エネルギー分野において、新たな技術・製品・システムの創出、適応を目指す国内外の企業等が、出来るだけ自由に実証を実施する事を可能にするため、関係する分野においては、国内規制と並行して米国及び EU の規制を各々受け入れる。
3. 特区における海外との経済活動一体化を促進する為、当地企業に勤務する者や研修生に関して、ビザの発給条件を緩和する。

② 特区の期待効果

1. 定量的効果
  - (ア) 新たな事業実施に伴う雇用増加
  - (イ) 新たな技術・製品・システムの創出に伴う、付加価値生産増大効果
  - (ウ) 外国人の増加に伴う消費経済効果
2. 定性的効果
  - (ア) 世界で日常的に起きつつあるエネルギー関連の技術やビジネスモデルに関するイノベーションを、常に同時並行的に取り入れる事による、イノベーションの相乗効果
  - (イ) 電力システム改革のスピードアップに伴う、経済効果の早期具現化
  - (ウ) 知識労働者（技術者、弁護士、会計士、コンサルタント等）、及び知識の集約化効果

③ その他特徴

1. ファブレス化への早期対応
2. 環境・エネルギービジネスに関するアジアにおける拠点化を実現

(ウ) その他

- ① 上記（ア）及び（イ）は、相乗効果が見込まれるため、同時並行的に実施することが効果的と思われる。

以上